

その先の向こうへ

GOING FURTHER

 五洋建設株式会社

CSR Communication Report

CSR報告書2012



お読みいただくにあたって

五洋建設グループは、社内外のステークホルダーの皆様へ、環境および社会活動を含むCSR*1活動をお知らせする目的でCSR報告書を発行しております。

2011年度版から、読者の方々により効果的に情報を提供できるよう、冊子版とウェブ版に分け、それぞれの媒体の特性を生かした編集を目指して作成しております。

冊子版はコミュニケーションツールと位置づけ、2012年度版ではISO 26000*2の7つの中核主題をテーマ設定とし、それぞれのテーマにおける取り組みをわかりやすくお伝えすることを心がけました。

ウェブ版は情報開示・説明責任のためのツールと位置づけ、より詳細な情報を必要とする方々を対象に五洋建設グループのCSR活動を網羅的に掲載しています。

また、ステークホルダーの皆様との対話を通して社会的責任を全うすることを目的に、茨城大学の三村教授に当社のCSR活動に対するご意見や今後期待する活動についてメッセージをいただきました。この内容はP.13に掲載しています。

ぜひ、ご一読いただき、五洋建設グループに対するご理解を一層深めていただけると幸いです。

対象期間

2011年度(2011年4月1日~2012年3月31日)を対象にしています。ただし当該年度以外の内容も一部掲載しています。

対象範囲

原則として、五洋建設グループを対象にしています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」、GRI「サステナビリティ レポーティングガイドライン(第3版)」

*1 CSR: Corporate Social Responsibilityの略で、一般的に企業が社会や地球環境に対して果たすべき社会的責任のことをいう。

*2 ISO 26000: 2010年11月に国際標準化機構が発行した、社会的責任に関する国際ガイドライン規格。すべての組織が取り組むべき7つの中核主題として「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」が定められている。



冊子版(本冊子) [2012年6月発行]

- 広くステークホルダーの皆様を対象とするコミュニケーションツール
- ISO 26000の中核主題をテーマに設定、主な取り組みをわかりやすく紹介

目次	03	社長メッセージ	10	公正な事業慣行 コンプライアンスの徹底
	04	東日本大震災からの復興に向けて	11	環境 環境負荷を低減する
	05	人権・労働慣行 安全な施工こそがすべて	12	消費者課題 品質は人の想いの結晶
	07	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展 地域社会の発展とともに	13	ステークホルダーからのご意見
	09	組織統治 永続的な成長・発展のために	14	会社概要

経営理念

社会との共感

高い品質の建設サービスを通じ、顧客や取引先、株主や地域社会に貢献し、信頼されることで持続的に発展し続ける企業を目指します。

豊かな環境の創造

豊かな自然環境を後世に伝えていくことは社会生活、経済活動の礎であるということを強く認識し、地球環境に配慮したモノづくりを通じて、安全で快適な生活空間と豊かな社会環境を創造します。

進取の精神の実践

顧客や社会のニーズに対し、実直に応えるとともに、企業を取り巻く社会の変化に対して常に進取の気概を持って挑戦します。

中期ビジョン

海と大地の“創造企業”

私たちは、臨海部ナンバーワン企業として魅力ある空間創造を究め、提案型企業として顧客満足と社会貢献を追求します。

確かな品質を約束する“こだわり企業”

私たちは、確かな技術に裏づけされた高い品質と安全なモノづくりを通じて、顧客と社会の信頼を築きます。

子供たちに豊かな環境を遺す“未来企業”

私たちは、企業活動を通じて良質で豊かな環境を創造し、次世代に確かな夢を、希望を、可能性を伝えます。

CSR基本方針

五洋建設グループは、「良質な社会インフラの建設こそが最大の社会貢献」と考え、安全、環境への配慮と技術に裏打ちされた確かな品質の提供を通じて、株主、顧客、取引先、従業員のみならず、地域社会にとって魅力ある企業を目指します。

誠実な企業活動

事業活動においては、法令を遵守し、社会的規範・倫理を尊重することはもとより、常に誠実な姿勢で行動します。

環境・自然との共生

- 環境に配慮したモノづくりと環境技術の開発に努め、地球環境の保全に貢献します。
- ハード・ソフト両面の防災技術の開発に努め、災害に強い生活空間の建設に取り組みます。
- 危急時には迅速な支援活動を行います。

人間尊重

- 従業員の個性が尊重され、能力が十分に発揮できる働き甲斐のある職場環境の実現に努めます。
- 従業員のみならず、関係するすべての人々の人権と多様性を尊重します。

社会とのコミュニケーション

広くステークホルダー（株主、顧客、取引先、従業員、地域社会等）とのコミュニケーションを心がけるとともに、適切で公正な情報を開示し、説明責任を果たします。

五洋建設グループを取り巻くステークホルダー



ウェブ版 [2012年9月発行予定]

- より詳細な情報を必要とする方々を対象とした情報開示のためのツール
- CSR活動を網羅的に掲載

トップページ > 会社案内 > CSRへの取り組み

<http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/index.html>

ウェブ版掲載内容

社長メッセージ

CSR活動の基本方針

社会活動報告

- お客様とともに
- 株主とともに
- お取引先とともに
- 地域社会とともに
- 社員とともに

環境活動報告

- 環境マネジメント
- 環境に配慮した技術（環境関連技術）
- 廃棄物・資源の適正管理
- 環境保全の取り組み

マネジメント報告

- コーポレートガバナンス
- リスクマネジメント
- コンプライアンスの推進
- 安全衛生・品質・環境マネジメント



今こそ、CSRの 原点に戻り、 事業を推進

代表取締役社長

村重 芳雄

五洋建設グループのCSR活動は、2005年4月に策定した経営理念、中期ビジョン、CSR基本方針のもと、全社で取り組みを始めてから、8年目を迎えています。個々の企業によって、取り組みの仕方や度合いに違いはありますが、時代、社会の変化とともに、CSRは経営に密接な関係にあります。

昨年3月に発生した東日本大震災は、私たち日本国民がこれまでに経験したことがないほどの大地震・巨大津波・原発事故による甚大な被害をもたらしました。

この大災害を契機として、日本中の多くの人々が、「今、自分たちに何ができるだろうか」と考え、行動しています。ある意味で、今ほど、国民一人ひとりが絆を感じ、この国の復興と新生、そして変革を考えている時はないと思います。

各々の企業も社会の一員としてともにあり、私たち一人ひとりも言わば企業市民として、企業の社会的貢献とともに存在していることを、改めて強く認識しています。

復興元年の今、当社グループが最も注力すべき取り組みは、震災からの復旧・復興対応です。それはまさしくCSR活動そのものであり、本業である建設事業を通じて社会の要請、期待にしっかりと応えていかなければなりません。

私たち建設業の本業は、国民の日々の生活、生産活動に必要な社会インフラを建設することであり、日本の国土を保全し、国民の安心と安全な生活環境を守ることが建設業の使命です。これからも私たちは建設業に携わる一員として、誇りを胸に強い使命感を持って取り組んでまいります。

当社グループのコーポレートメッセージ「その先の向こうへ」は、私たちがありがたい将来像、未来に向けての決意をあらわしています。

これからも私たちは現状に甘んじることなく、チャレンジ精神と自己革新力を大いに発揮し、希望と情熱を持って邁進してまいります。

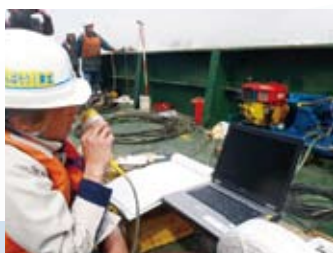
今こそ、CSRの原点に立ち戻り、臨海部ナンバーワンのフロントランナーとして、「その先の向こうへ」を見据えて企業価値を高め、社会とともに持続的に発展・成長し、魅力ある、信頼される企業グループを目指してまいります。

本報告書につきまして、お客様、株主様、お取引先、従業員、地域社会など、広くステークホルダーの皆様からの忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

東日本大震災からの復興に向けて

東日本大震災の発生から一年余りが経過し、今まさに復旧・復興活動が本格化しています。当社グループにおいても、建設業に携わる企業として使命感を持ち、被災地の一助となるべく復旧・復興に全力を尽くしてまいります。

震災発生後、直ちに作業船団を派遣して港湾の航路、泊地の啓開作業を実施。



(仙台塩釜港)



(小名浜港)

仙台空港アクセス鉄道の復旧工事。夜を徹して地盤改良工事を施工。



(仙台空港)

被災した防波堤のケーソンを撤去し、新たに据付を実施。



(八戸港)

津波により陸に打ち上げられた5隻の大型漁船を再び海へ。



(気仙沼港)

一刻も早く機能を回復させるため、使用不能になった岸壁を整備。



(仙台塩釜港)



(常陸那珂港)



[人権・労働慣行]

安全な施工 こそがすべて

1957年の海外進出から半世紀以上。スエズ運河の大改修工事をはじめ、シンガポールや香港など世界各地の工事を手がける五洋建設にとって、海外での労働安全衛生の徹底も重要な課題です。ここでは、「シンガポール マリーナ高速道路485工事」における労働安全衛生の取り組みを紹介します。



日々の朝礼では、密なコミュニケーションが図られている

シンガポール初の海底道路トンネル工事

マリーナ地区高速道路は、シンガポール政府陸上交通庁が計画するシンガポールで10番目の高速道路で、将来予測される交通量増大に対応し、新たな陸上交通網を整備する産業振興プロジェクトです。カジノやホテルなどのリゾート開発が進むマリーナベイエリアの南側に全長5.3km、うち地下トンネル部3.6km、片側5車線の自動車専用道路を建設します。

当社が担当する485工区は、全長700m、幅55m、片側5車線の2連ボックスカルバート構造の地下トンネルを開

削工法にて施工します。このうち420mは海底下に構築されるもので、シンガポール初の海底道路トンネルとなります。

労働安全衛生の徹底

当社グループの安全に対する基本姿勢は人間尊重です。安全最優先の施工こそが人道的かつ社会的な責務であると考え、建設業界の中でも早くからコスモス(COHSMS^{*1})認定を取得し、五洋建設労働安全衛生マネジメントシステム(ペンタコスモス:PENTA-COHSMS)による継続的な安全衛生管理を実施しています。シンガポールと香港でもOHSAS^{*2}を取得しており、長年

培った安全衛生管理をその環境や慣習に適応したかたちで実践しています。

各国・地域の事情に応じた労働環境の整備

当現場では、シンガポールやマレーシアをはじめアジアを中心にさまざまな国籍のスタッフ・作業員が働いています。日本と比較した際、安全衛生に対する意識や知識が異なるため、安全衛生担当者による徹底した教育が必要になります。そこで、現場内の標識等は、英語・中国語・マレーシア語・インド語の4つの言語で表示し、すべての作業員が理解できるよう配慮している他、朝礼や打ち合せ

Voice

安全表彰ダブル受賞を励みに、スタッフ全員でさらなるレベルアップを図る

当工事事務所は、2011年7月、シンガポール人材開発省(MOM)と安全衛生評議会(WSH Council)が主催する「2011年度職場安全衛生表彰^{*3}(WSH Award2011)」と陸上交通庁(LTA)主催の「2011年度安全・環境表彰^{*4}」を受賞しました。これは、日頃から安全・環境の模範現場であることを目指し、スタッフ一丸となって取り組んだ努力が認められたことであると考えています。数ある職場・現場の中から選ばれたことに誇りと責任を持ち、今後も安全衛生活動をさらにグレードアップしていきたいと思ひます。

また、当工事はシンガポール国内外から注目されており、スタッフ全員がやりがいと情熱をもって臨んでいます。このスタッフの情熱をさらなるモチベーションアップにつなげることで、品質・工程・安全・環境とすべての面でより高いレベルのお客様満足の向上を目指していきたいと思ひます。

マリーナ高速道路485工事事務所
工事所長

内田 桂司

その先の向こうへ



式典でトロフィーを授与される内田(写真右)



安全への取り組みについて、熱心に取り組んだ作業員を表彰

安全大会の緊急救護訓練の様子



朝礼を行う広場には、器具を常に正しく良い状態で使用することを周知する案内板を設置

食堂や休憩場所には、安全や体調管理、環境への配慮を促す掲示板を設置

時に、作業の細かな点を作業員と密なコミュニケーションを図ることで現場一丸となった安全衛生を追求しています。

また、確実な安全衛生管理が実践できるよう、現場では定期的に教育・訓練を実施、安全大会では緊急救護訓練を行うなど万一の事態に備えた訓練も行っています。安全衛生管理に貢献した作業員には表彰を行うなど、モチベーションの向上を図っています。

さらに、当現場内では、宗教に応じた食事の提供やイスラム教徒のスタッフ用に礼拝する場所を事務所内に設けるなど人権はもとより、現地の文化・慣習にも配慮しています。当現場は、最盛期には作業員が約800名にもなりますが、お互いに各国・地域の事情や文化、

慣習を理解・尊重し、思いやりながら、現場スタッフが一丸となって同じ目的に向かうことが何よりも重要と考えています。

より充実感を得られる職場環境づくりを目指して

海外では転職してキャリアアップを図っていくことが通例で、一社に一貫して勤めることは少数の例になります。そのような労働慣行の中で、当社には、10年、20年以上と長く務めるスタッフも多く存在します。今後も人間尊重を基本姿勢に、現場スタッフ全員がやりがいを持って働ける職場環境の整備を図り、安全最優先の施工に努めていきます。



マリーナ高速道路485工事全景

安全衛生活動指針

- 労働災害の防止はもとより公衆災害を含めたすべての災害防止に努める。
- 職業性疾病を防止するとともに、心と体の健康づくりを推進し、快適な職場環境を形成する。
- 社員および協力会社の連携のもと安全衛生活動を実施し、水準の向上を目指す。

WEB ウェブサイトに以下の情報を掲載しています。

- お取引先とともに
- 社員とともに

五洋建設ホームページ ▶ 会社案内 ▶
CSRへの取り組み ▶ 社会活動報告

<http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/society/>

用語解説

※1 COHSMS

建設業労働安全衛生マネジメントシステムのこと。OHSMSのガイドラインに基づき、建設業の特性を考慮して作成された安全管理システム。

※2 OHSAS

組織が構築すべき労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)の要求事項などがまとめられた国際規格のこと。

※3 職場安全衛生表彰

シンガポール人材開発省(MOM)と安全衛生評議会(WSH Council)が、シンガポールの全産業から安全衛生の活動に対して特に優れた職場を表彰するもので、当社はこのプロジェクト部門に2年連続で選ばれています。

※4 安全・環境表彰

シンガポール陸上交通庁(LTA)が発注・管理する超大型工事部門において、優れた環境管理を行っている現場に対する表彰。

【コミュニティへの参画及び
コミュニティの発展】

地域社会の 発展とともに

五洋建設グループは、地域貢献・環境活動・次世代育成への貢献を軸に、ステークホルダーの皆様との交流や対話を大切にされた社会貢献活動を国内外で展開しています。本業を通じて地域の発展に貢献するために行っている行政や地域の皆様との協働の取り組みを紹介します。



瀬戸内海の生き物を中心に350種、13,000点以上の生き物が展示され、命の温もりや尊さ、環境の大切さを学びながら瀬戸内の恵みを再認識できる参加・体験型の機能が充実している

世界文化遺産と共生する参加・体験型水族館 新宮島水族館 (愛称:みやじマリン)

日本三景、瀬戸内海国立公園として、地元はもとより、国内外の観光客に親しまれている景勝地・安芸の宮島(広島県廿日市市宮島町)。世界文化遺産として名高い厳島神社を有する宮島に、『いやし』と『ふれあい』をコンセプトとした参加・体験型の新宮島水族館が2011年8月に誕生。子どもから大人まで楽しみながら学べる施設として、オープン以来、たくさんの家族連れや観光客でにぎわい、今や宮島の観光振興や地域経済貢献の拠点として大きな期待が高まっています。

観光振興と地域経済貢献の拠点を目指した水族館づくり

昭和42年から平成20年までの41年間、多くの人々に愛されてきた旧宮島水族館は、長い年月の経過とともに施設が老朽化し、お客様のニーズも多様化する中で、地域の活性化や集客力の向上を目指した施設の全面的なリニューアルが必要とされていました。そこで、廿日市市が民間のノウハウを最大限に活用することができるPFI^{*1}の手法を初めて導入し、全面的に建て替えることにしました。

当社は、このプロジェクトにおいて特別目的会社(SPC)である宮島アクアパートナーズ株式会社に代表企業として出資し、全面リニューアル工事に加え、

オープン後15年にわたり水族館の維持管理・運営に携わります。

宮島アクアパートナーズ(株)の代表を務める渡部は、「私たちが最もこだわり、また廿日市市様や地元から期待されていたことは、宮島の観光振興・地域経済の活性化に貢献できる拠点としての水族館づくりでした」とプロジェクト立ち上げ当時を振り返ります。もともと宮島水族館は、世界文化遺産の厳島神社の程近くに位置することから、地元をはじめ海外の観光客からも長年親しまれており、この特性を最大限に生かしつつ、いつ訪れても飽きのこない、宮島ならではの場所を創出することが、地元から期待されていたことでした。



宮島アクアパートナーズ株式会社
代表取締役

渡部 浩

(建築部門 建築営業本部副本部長)

水族館のにぎわいを保ち続けることが最大の宮島への貢献

新たな水族館づくりに向けて廿日市市が掲げた水族館のコンセプトは、『いやし』と『ふれあい』。このコンセプトのもと、水族館職員の方々をはじめとした市行政と宮島アクアパートナーズ(株)のスタッフ一丸となった取り組みがスタートしました。

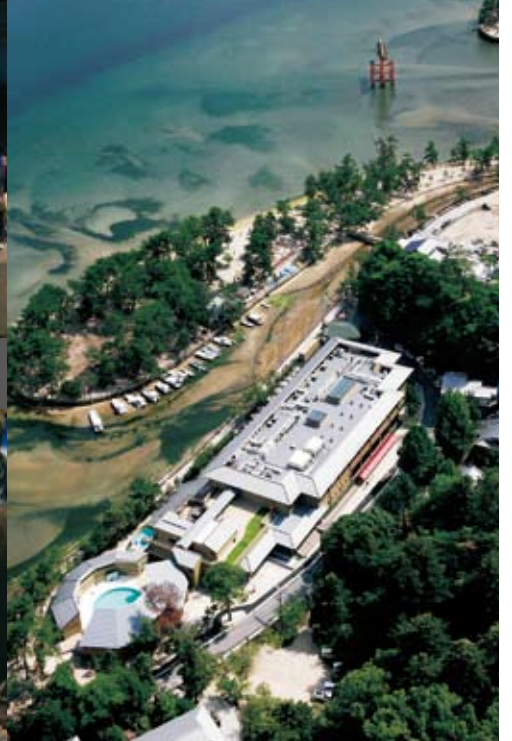
「今回のプロジェクトに集ったスタッフは、宮島や水族館に対する想い入れが非常に強く、豊富な経験と高い専門



日本初の垂下式カキ水槽は、カキいかだを深さ5メートルの水槽に再現している



子どもに大人気のタッチングプールは宮島の浜辺をイメージ、常に笑顔の家族連れでにぎわっている



宮島は、文化財保護法、自然公園法、都市計画法（風致地区）などの指定地区のため、計画・設計・施工すべての段階で海上土木のノウハウを生かし、安全、景観、環境保全に徹底した対策を図った

性を生かし、宮島らしい質の高い提案やサービスができたと思います」と渡部が話すように、宮島らしい展示や機能が次々とかたちになっていきました。

新水族館は、瀬戸内海の生き物を中心に350種、1万3,000点を展示。瀬戸内海の潮の満ち引きまで再現した『宮島の干潟コーナー』、カキいかだを深さ5メートルの水槽に再現した日本初の『垂下式カキ水槽』、宮島の浜辺をイメージした『タッチングプール』など展示機能の充実が図られ、これまでの観る水族館から参加・体験型の水族館に生まれ変わりました。

水族館の入館者数は、オープン以来好調に推移し、来島者の約3割が水族館を訪れるほどのにぎわいを見せています。そして、水族館のリニューアルによって、宮島の商店街にも活気があふ

れ、街に笑顔が増えたことがわかります。「水族館のこのにぎわいを保ち続けることが最大の宮島への貢献」と渡部が話すように、水族館では人気を絶やさないために、次のアイデアや企画の準備を着々と進めています。

地域から日本を元気に

今回のプロジェクトは渡部をはじめ、関わったスタッフ全員が大きく成長できた機会であったといいます。それは水族館を運営する側の視点、水族館に遊びに来る方の視点など、運営面をはじめとしたトータルサービスの大切さを再認識することができたからです。「水族館を訪れる子どもたちのうれしそうな笑顔を見るたびに、そして明るく活気づいた町全体を見るたびに、このプロジェクトに関わることができて本当に良かったと感謝し

ています。今後も今回の経験と成果を生かし、水族館の維持管理・運営に尽力することはもとより、地域から日本が元気になれるよう、そして、たくさんの人々の笑顔をつくれるよう、行政や地域の皆様とともに地域経済の活性化に貢献していきたいと思っています」と渡部は語ります。

今後も社会の要請や期待に本業を生かして積極的に応えていきます。

WEB ウェブサイトに以下の情報を掲載しています。

●地域社会とともに

五洋建設ホームページ > 会社案内 > CSRへの取り組み > 社会活動報告

<http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/society/>

用語解説

※1 PFI(Private Finance Initiative)
公共施設等の建設や維持管理、運営等を、民間の資金、経営能力および技術能力を活用して行う手法。

Close Up

水族館効果で宮島来島者増加

水族館は、オープン初年度の目標に来館者70万人を挙げていましたが、9カ月後の4月にはこの目標を達成し、それまでの年間入館者数25万人を大きく上回っています。ラッコプールの最盛期である1988年に記録した、年間71万人の最高記録ももはや過去の記録となりました。

また、廿日市市のまとめによると、2011年の宮島への来島者数は363万1,000人（前年比6%増）と過去最高を記録。下半期は、水族館効果などで15.8%の大幅増となっており、水族館のリニューアルオープンが宮島の観光振興に大きく寄与しているとされます。宮島の地域経済貢献の拠点として大きな期待が高まっています。

その先の向こうへ



観光客でにぎわう宮島の商店街

永続的な成長・発展のために



コーポレートガバナンスの充実を重要な経営課題と位置付け、経営における意思決定の迅速化、透明性の向上、公正性の確保を目指した経営体制および実効ある内部統制システムの構築に取り組んでいます。

コーポレートガバナンス体制

五洋建設では、経営の健全化、透明性および遵法性を確保し、会社の永続的な成長・発展を図るため、コーポレートガバナンスの充実に取り組んでいます。

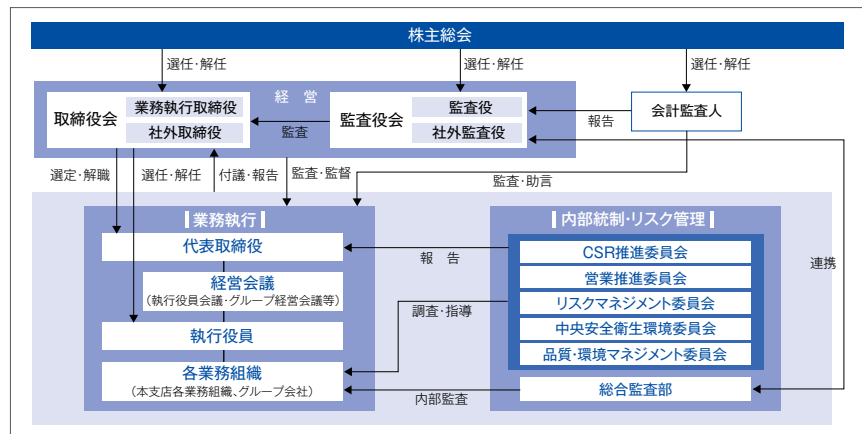
経営に対する監督機能の強化を図るため、1名の社外取締役を選任し、監査役会、内部監査・内部統制担当役員等と連携を図っています。また、取締役会

の活性化と意思決定の迅速化を図り、業務執行の責任を明確にするため執行役員制度を導入し、役員候補や役員報酬案を取締役に答申する人事委員会を設置しています。取締役会は原則月2回の開催とし、重要事項について活発な討議のうえ、意思決定を行っています。取締役、執行役員の報酬は、その責任を明確にするため、業績と報酬が連動す

る役員業績評価制度を導入しています。

また、当社は監査役制度を採用しており、3名が社外監査役です。監査役は取締役会に常時出席しているほか、執行役員会議等社内の重要会議にも積極的に参加し、取締役の職務執行を十分に監視する体制を整えています。（社外取締役、社外監査役の人数は、2012年3月31日現在）

コーポレートガバナンス体制



内部統制システムの整備

リスク管理の徹底、法令遵守、業務の適正かつ効率的な遂行を確保するため、取締役会において内部統制基本方針を策定し、社内規制等の体系化を図るとともに見直しや強化を進めて内部統制システムを整備しています。

リスクマネジメントの推進

リスクマネジメント委員会のもと、リスク管理体制を整備・運用し、内部監査部門の監査等を通じてリスク管理体制の強化に取り組んでいます。

Close Up

その先の向こうへ

BCP (事業継続計画) の見直し

当社では、特に首都直下型地震を想定したBCPを2007年に策定、毎年BCP防災訓練を実施し継続的に改善を図っています。東日本大震災では、社員の徒歩帰宅や被災した支店への生活支援物資の迅速な海上輸送など、これまでの訓練の成果が表れた一方、既存のBCPでは想定していなかった事態が発生しました。BCPの見直しを進め、2011年9月の訓練においては、状況に応じたBCP対策メンバーを構築し、近隣の避難場所への避難訓練を関係官庁と協同して行いました。今後は、BCPの対象範囲をグループ会社全体に拡大するとともに、首都圏以外の地域での防災訓練も行っていきます。

WEBSITE ウェブサイトに以下の情報を掲載しています。

- コーポレートガバナンス
- リスクマネジメント

五洋建設ホームページ > 会社案内 >
CSRへの取り組み > マネジメント報告

<http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/management/>

【公正な事業慣行】

コンプライアンス の徹底

法令遵守はもとより、社会的規範・倫理を尊重し、グループ全役職員が常に誠実な姿勢で行動していくことがコンプライアンス活動の根幹です。

法務グループ長の福原より、グループコンプライアンスの徹底に向けた取り組みについて紹介します。



経営管理本部 総務部
法務グループ長
福原 敏夫

コンプライアンスの徹底は CSR活動の根幹

企業の社会的責任を果たすためには、その根幹であるコンプライアンスの重要性をグループ全役職員が十分に理解し、徹底しなければなりません。五洋建設グループでは、コンプライアンスの徹底をCSR活動の根幹と位置づけ、グループ会社各社にコンプライアンス委員会を設置、法令遵守はもとより、社会的規範・倫理を尊重し、グループ全役職員が常に誠実な姿勢で行動することができるよう、グループコンプライアンスの徹底に努めています。また、当社グループにおける内部通報制度としての「コンプライアンス相談窓口」を設置し、コンプライアンスリスクの早期発見、予防等も行っています。

知識ではなく意識として 感知する能力を高めるために

コンプライアンスの徹底に向けては、全役職員にコンプライアンスハンドブックを配布する他、職種別・階層別の教育・研修や社内イントラネットに専用データベース「コンプライアンスの扉」を設けるなど、継続的にコンプライアンス意識の向上に努めています。

2011年度は、グループコンプライアンスの一層の強化を図るために、グルー

プ全役職員を対象としたeラーニングを実施しました。今後はこの結果をもとに、課題やテーマ等を検証分析し、グループ会社各社への支援を一層強化していきたいと思えます。

また、最近の研修では、コンプライアンスに限定しないリスクマネジメント教育に取り組んでいます。普段の業務に潜むリスクを身近な事例を通じてわかりやすく解説する他、ディスカッションなども取り入れながら受講者が興味を持ってくれるよう工夫しています。特に若手社員には、自分の業務が法律にどう関与しているのかに加えて、どのようなリスクが潜んでいるのか、リスクの顕在化の兆候は何かなどを取り上げて、知識の習得以外にリスクを感知する能力を身につけることができるような内容としています。



グループ全体で100回開催された各種研修には、延べ2,310人が参加

社会から発展を期待される 企業グループを目指して

2011年、わが国は、東日本大震災により未曾有の被害を受けました。被災地域の復旧・復興はもとより、日本の国土を保全し、国民の安心と安全な生活環境を守ることが、私たち建設業の使命であり、社会から期待されていることであると思えます。

当社グループが社会から信頼され、企業価値を維持・増大させていくためには、グループ全体でのコンプライアンスの徹底と効果的なリスクマネジメントが必要です。今後もコンプライアンスを含めたリスク管理体制を一層強化し、内部統制システムの整備運用状況を適切に評価・改善を図ることで、社会から信頼され、魅力ある産業として持続的に発展を期待される企業を目指していきたいと思えます。

ウェブサイト以下に以下の情報を掲載しています。

- コンプライアンスの推進

五洋建設ホームページ ▶ 会社案内 ▶
CSRへの取り組み ▶ マネジメント報告

[http://www.penta-ocean.co.jp/
company/csr/management/](http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/management/)

環境負荷を低減する

海象・気象、海底地形等、刻々と変化する自然と向き合いながら進める海上工事。その特殊な環境下で、精度を保つだけでなく、自然環境に影響を及ぼさないことも私たちの使命です。自然環境に配慮しながら作業をする海上工事を紹介します。



グラブバケットで海底の土砂を取り除く浚渫工事の様子

経験があるからこそできる提案

「国際バルク戦略港湾」に選定され、整備が進められている山口県徳山下松港。今回当社は、同港の新南陽地区延長375mの航路を水深12mに浚渫※1する工事と、その際に出た浚渫土を有効活用して干潟を造成する工事を施工しました。

当工事で浚渫した土砂は、直線距離で南東に約10km離れた大島地区に運び、100%利用して11haの干潟を造成します。すでに完成した干潟が隣接し、そこではアサリの成育試験が始まっているために、当工事で求められたのは、埋立の際に発生する汚濁が、周辺海域やアサリの成育試験場所へ影響を及ぼさないようにすることでした。

そこで、当社は、以下の3つに留意して施工しました。

①土砂を作業船によって投入する際、

先端にゴム製の飛散防止装置を設置し、土砂の飛散・流出の防止を徹底しました。

②潮の流れに乗って汚濁が流れないように、施工時間に配慮して作業船の運航などの施工計画を作成し、埋立エリアへの進入・退出に制限を行いました。

③近接するアサリの成育試験場所に配慮して、工事区域の境界に汚濁拡散防止対策を実施し、成育試験に工事の影響が及ばないように配慮しました。

これら3つは、海上工事で培った経験があるからこそ、生まれたアイデアでもあります。

地盤の高さがアサリの成育を左右する

アサリの成育条件には、地盤の高さが重要です。最適な浅瀬を確保するため、発注者である国土交通省からは、設

計計画値より、誤差±50cm以内で地盤を造成することが求められていましたが、当社はその要求以上の精度の高さで施工しました。波浪や流れ、地形の変化に対応しながら、緻密な高精度のモノづくりをするためには、自動測量器に頼るだけでなく、重要な地点では長年かけて培った経験に基づき、人の手でも慎重に計測を行いました。

工事は2012年3月で終了しました。今後は埋立地の表面を砂で覆う作業が実施され、多様な生態系の回復につながる干潟になる予定です。



干潟造成の様子
船の先端には飛散防止装置を設置



汚濁拡散防止対策の施工状況

WEB ウェブサイトに以下の情報を掲載しています。

- 環境マネジメント
- 環境に配慮した技術(環境関連技術)
- 廃棄物・資源の適正管理
- 環境保全の取り組み

五洋建設ホームページ > 会社案内 >
CSRへの取り組み > 環境活動報告

<http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/environment/>

用語解説

※1 浚渫

水深を深くするため、海底・河床などの土砂を、掘削すること。

Voice

施工を通じて、環境への意識を高めています

当工事は、浚渫土を有効利用して干潟を造成するという珍しい事業であったため、多方面より注目を集めていました。

近隣の住民の方や、土木を学ぶ学生など見学者が多く、そこで環境に配慮した施工方法を示すことで、私たちも環境への意識をより高めることができ、チームワークの向上にもつながっていました。この干潟が、海辺の生態系を再生する一助になってくれればと願いを込めて施工にあたりました。

その先の向こうへ



中国支店 徳山干潟工事事務所
工事所長

石澤 秀文

[消費者課題]

品質は人の 想いの結晶

五洋建設グループは、お客様と社会の期待に応えるために、品質活動方針に基づいたマネジメントシステムを運用し、高い品質と安全なモノづくりを追求しています。

確かなモノづくりを約束する企業グループとして、品質にかける想いを工事所長の奥田から紹介します。

東京建築支店 月島建築工事事務所

工事所長

奥田 敏

誰が見ても恥ずかしくない仕事

私たち建設業の仕事は二度と同じものをつくるということがありません。常に現場に入っている時は真剣勝負、「次」や「今度」のない背水の陣を敷き、全力で臨みます。

現場には、「誰が見ても恥ずかしくない仕事・誰が見ても安全な作業」というスローガンを掲げています。外観的に美しいということはもちろん、基礎や躯体工事などの見えなくなるところこそ、「誰に見られても恥ずかしくない仕事」を意識します。そして、作り手として「自分たち自身が納得できているか」「自分たちにとって恥ずかしくない仕事になっているか」を各人が自問することで進めていきます。自分たちの仕事に高い見識を持ち、つくり上げることで評価は後からついてくるという私たちのプライドでもあります。言葉で伝えられない「想い」を品質で伝えるのです。



事務所での打合せ

9割の「自信」と1割の「恐れ」を持って仕事に臨む

プロである以上、100%の自信を持って方針を決めます。自信がなければ進めることはできません。しかし、「どこかに間違いや勘違いがあるかもしれない」という、自分の仕事に対する「恐れ」を忘れません。1割の「恐れ」を持つことは、品質や安全などあらゆる面に慎重さと謙虚さを生み、新たに発生するトラブルをも気づかせ、未然に防ぐことにつながると思っているからです。

品質は思いやり、 人の気持ちの結晶

建築の仕事は一人ではできません。大勢の人の「力」を必要とします。大勢でやるからこそ、一人ひとりの気持ちの積み上げが出来栄えに現れます。釘1本、ビス1個の取り付けにも人柄が出ます。各人の力に“人の想い”が輝きをつけ、“思いやり”による連携がその艶を向上させます。つまり、品質は人の想いの結晶であるということが出来ます。そして、その気持ちを湧き上がらせ、スタッフの潜在能力を引き出して一つの方向に、より安全に向かわせるのが施工管理であり、工事

所長としての私の使命です。

1896年の創業から100有余年、当社にはスエズ運河に代表される港湾土木を礎に、先人たちが脈々と築き上げた信頼とブランドがあります。その培われた技術に恥ずかしくない仕事をするのが、私たちのプライドの原点でもあります。このプライドを胸に、スタッフ全員で品質を追求し、お客様や社会のニーズに応え続けていきたいと思っています。



ウェブサイトに以下の情報を掲載しています。

●お客様とともに

五洋建設ホームページ > 会社案内 >
CSRへの取り組み > 社会活動報告

<http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/society/>



現場スタッフとあらゆる工程の作業を確認

五洋建設に期待すること



茨城大学学長特別補佐
地球変動適応科学研究機関長
三村 信男 氏

今改めて土木・建設会社に社会の目が向けられている。2011年3月の東日本大震災と津波、その後の原発事故からの復興には、社会インフラの復旧・復興が欠かせないからである。これに全力で取り組むという姿勢は、昨年来の五洋建設CSR報告書において、村重社長が明確に述べられていることであり、高く評価されるべきものである。

ここでは、社外の第三者の見方として、さらにその先の期待を述べたい。大震災以降、レジリエンスの高い社会をめざすということが各所で言われるようになった。レジリエンスとは、環境変化に対する自然環境や社会の対応力のことである。例えば、生態系では、山火事や嵐の後に新しい生態系が復活する「回復力」をレジリエンスと呼ぶ。しかし、災害に強い社会に求められるレジリエンスはより幅広い内容を含んでおり、①(災害事象は避けられないとしても)被害の拡大を防ぐ力、②被害からの復旧・復興(回復力)、③被害を柔軟に分散して受け止める力、④様々な環境リスクへの適応力などの総合力を指している。五洋建設が取り組む災害復興事業では、この社会のレジリエンスをいかに高めるかという視点を持つべきではないか。

こうした総合的なレジリエンス(災害対応力)には、個々の施設が設計外力を越えた地震・津波にも粘り強く抵抗すること、ハードな防災施設が幾重にも重なって力を発揮すること、ハード施設とソフト対策が協調してより高い防災体制となっていること、運輸・交通網やサプライチェーンが多重化されており生活や経済活動の継続が可能であること、といった多層的な仕掛けが必要である。そのため、インフラ施設の建設を社会のレジリエン

ス・システム構築の一環としてとらえて、見通しよく施設を設計すれば、災害時に発揮する防災機能に大きな差が出ると予想される。また、今後激化が予想される気候変動への適応においても、こうした仕掛けは有効である。インフラ施設全般の構想は国・地方の行政の役目かも知れないが、海岸・港湾事業において長期的にレジリエンスを高めるといふ発想を持つことは重要である。

もう一つの期待は、地域の好循環を生む仕事をさせていただきたいということである。CSR報告書にも地域社会と共に歩むことが強調されているが、大変重要な視点である。地域で仕事をすれば、単にモノを作ることにとどまらなくなる。新宮島水族館や徳山下松港の浚渫土砂を用いた干潟造成の報告が掲載されているが、こうした事業が評価されるのは、作ったモノが人を集め、アサリなど水産資源の増加に寄与し、地元の収入が増え、雇用が生まれ、地域の魅力が高まるからである。モノを作ることによって、新しい価値を生み出し地域の好循環を生んだことになる。日本は、少子高齢化や地域経済の長期低落で苦しんでいるが、それをね返すような、それぞれの地域に好循環を生む仕事をもっと進めていただきたい。

CSRは企業の社会的責任のことであり、建設会社の社会的責任は、安全・安心な持続可能社会の構築にいかに関与するかにある。このCSR報告書で述べられている五洋建設の姿勢、つまり、社会に誠実に向き合い、本業に全力で取り組むという姿勢には大いに共感を覚えるが、それと同時に、これまで述べた社会の長期的な展望を視野に入れた取り組みを期待したい。

ご意見を受けて

「CSR報告書2012」の発行にあたり、三村先生には貴重なご意見をいただき誠に有難うございました。

昨年3月の東日本大震災をはじめ、近年、大規模な自然災害が頻発し、リスクが顕在化する中、災害対策の重要性・緊急性が再認識され、防災・減災に対する国民の意識がこれまでに高く高まっています。

当社グループは港湾施設をはじめとする社会インフラの建設を担い、これからも本業を通じて国土を保全し、国民が安心できる、安全な生活環境を守ってまいります。

また、三村先生からご示唆いただきました当社への期待、CSR活動の針路をその先の向こうに見出し、今後も企業価値の向上に努め、社会とともに持続的に発展し、成長すべく邁進してまいります。



取締役専務執行役員
経営管理本部長(兼)CSR推進室長
佐々木 邦彦

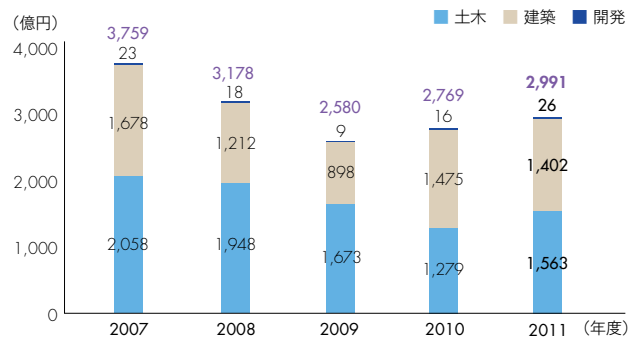
会社概要

会社概要

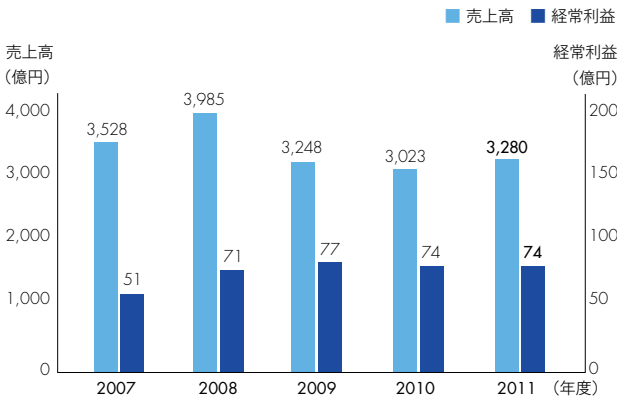
社名	五洋建設株式会社 PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO., LTD.
創業	1896年(明治29年)4月
代表者	村重 芳雄
資本金	30,449百万円(2012年3月31日現在)
従業員数	2,391名(2012年3月31日現在)
主な事業	建設工事の設計および請負、 その他関連する一切の事業

※財務情報の数値はそれぞれ四捨五入しています。

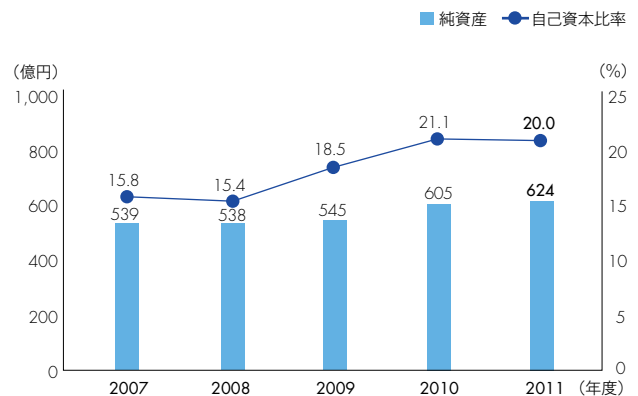
受注高(個別)



売上高・経常利益(連結)



純資産・自己資本比率(連結)



コーポレートロゴについて

“創造する心に国境はない”この信念をもとに、世界各地で活躍を続ける五洋建設。これを表現したのが五角形のマークで、太平洋・大西洋・インド洋・南氷洋・北氷洋の5大洋をデザインしました。



マスコットキャラクターについて

五洋建設のマスコットキャラクター「Mr.PENTA」は長い胴と短い足が愛らしいバセットハウンドがモデルです。名前は五洋建設の英語名「Penta-Ocean」から命名されました。



Topics

国内初的大型多目的自航式起重機船「CP-5001」

2012年6月、大型多目的自航式起重機船「CP-5001」が就役しました。本船は、500t吊全旋回式クレーンを装備し、クレーン作業、浚渫作業(砕岩含む)、魚礁沈設作業など、多彩な作業が可能な、近海区域内を自航できる作業船です。

本船は、日本の国際競争力強化に向けた港湾整備や、既存の港湾施設の延命化、耐震機能の向上、そして離島での港湾整備に対応するために、2011年5月より新規建造を開始しました。

本船は、長期間の航行で多種多様な作業を行えるよう、船型や機装品に工夫を凝らし、海洋ブロードバンドなど最新のシステムを搭載しています。また、作業員の生活空間や省エネ効果など、環境にも配慮した作業船です。



多目的自航式起重機船「CP-5001」

その先の向こうへ

その先の向こうへ

GOING FURTHER



<http://www.penta-ocean.co.jp>

●営業ネットワーク

本社 / 〒112-8576 東京都文京区後楽2-2-8

支店 / 札幌 東北 北陸 東京土木 東京建築 名古屋 大阪 中国 四国 九州

海外営業所 / シンガポール 香港 ベトナム インドネシア マレーシア エジプト

●お問い合わせ先 CSR推進室

TEL: 03-3817-7550

FAX: 03-3814-2864

用紙での配慮



FSC®認証紙の使用

適切に管理された森林の木材を原料にしている紙を使用しています。



間伐に寄与する紙の使用

この印刷物に使用している紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

印刷での配慮



水なし印刷

有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式で印刷しています。



Non-VOCインキの使用

VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インキを使用しています。



グリーンプリンティング認定工場での印刷
一定の環境配慮基準を達成した「グリーンプリンティング認定工場」において印刷しています。



カーボンオフセット

このレポートを作成した際にかかわったCO₂ 668kgは、一般社団法人日本カーボンオフセットを通じてオフセットされ地球温暖化防止に貢献します。



グリーン電力

本レポートの印刷・製本に要した消費電力(259kWh)は、すべてグリーン電力でまかっています。